

ありえないポエム―

読み替え漢字話(二年)

千葉県野田市立南部小学校教諭

卯月 啓子



1 読み替え漢字は難しい

二年生(平成十六年度二年五組男子15人女子14人)の懇談会で、裕太君のお母さんが、「漢字の読み方を一つ覚えるとそれしかわからないんですよ。『下』は『した』と習つと、『下がる』『も』下りる』『もみんな』した』なんですよ。どうしたらいいんでしょう。」「と相談されました。うなずいているお母さんも何人か。これは大変。

楽しくおもしろく覚えるという、意識なしに頭に入ってしまうような手立てはないか考えました。

読み替え漢字を折り込んだポエムを作つて、それを毎日声に出して唱えていったらどうだろう。それも一人一人の名前を入れて作れば、自分の漢字つまり「マイ漢字」

となり、ほかの子はその子の名前との連想で覚えやすくなるのではないかと考えました。

2 子どもの名前を折り込んでポエム作り

早速、十一月十五日の朝の会で、『下』にはどんな読み方がありますか。いろいろな読み方を入れてポエムを作ります。』と言いました。近くにいた子の名前をとっさに入れて「志賀君が下校して帰ると中…」と書きだしました。そして「げ」という読み方に丸を付けてチェック。「一つの読み方だけじゃないんだよ。まだ、いっぱい読めるよ。」「と、みんな、口々に違う読み方をしました。しめしめ、それが私のねらい。

一文ずつ子どもたちと相談しながら作りました。黒板に書きたびに、みんなは大歓声。志賀君はちよつと恥ずかしそうにしていますが、自分の活躍するポエムになっているのでまんざらでもない様子。出来上がったポエムは、みんなで大きな声で読みました。

「志賀君が下校してノ帰ると中、石につまずき、ノ下にあったお金をひろつた。ノさかを上つて下りて地下室に行き、ノさらに下つて下つて、ノ地きゆうのうらまで下がり、ノ世界一しゆうをした。」

すると、志賀君が、みんなが読み終えた直後にタイミ

ングよく、「ありえない、ありえない。」と手を横に振つて続けたのです。みんな大爆笑。

3 読み替え漢字ポエム「上」

このポエムを、毎朝、みんなで大きな声で読んでいると、すぐ暗唱してしまいました。よっぽど楽しいのか、男の子二人が、「次は『上』にして。ぼくの名前入れてね。」と二十六日(金)に申し込んできました。そして、放課後残つて書いていきました。上葉さんという女の子は、名前に「上」があるので、ぜひ書きたいと、家でポエムを書いてきました。

二十九日(月)の朝に、上葉さんの作品がいいということ、みんなで相談しながら手直ししていきました。「田中上葉さんノ今日はさか上がりノジャンプして上がつてノピュンピュングルリンチョノまあるくなつて回つてノグルングルンノ目が回つたあノグラグラノ上ぎをぬいでノ上ぐつすつとびノ空の上までノ上つて上つてノグルリンチョノ上手に回つてノ川上まですつとんだ。(ありえない。ありえない。)」

4 読み替え漢字を分担してポエム作り

先の男の子二人は、「別の漢字をやつて。」と言いました。教科書の巻末表を使つて分担し、ポエム作りをしました。楽しい時間になりました。

二時間使つて、ありえないポエムを作りました。

